

聴覚障害者が音楽イベントに参加する際の課題及び実態の調査と提言

Examining Challenges and Realities of Participation by Deaf and
Hard of Hearing Individuals in Music Events

岩館 結名¹⁾
指導教員 吉岡 英樹¹⁾

1)東京工科大学メディア学部

アブストラクト：聴覚障害者が音楽イベントに参加する際に直面する課題と実態を調査し、インクルーシブな音楽イベントの実現に向けた提言を行う。先行研究のインタビューを元に、量的調査のためのアンケートを作成する。手話通訳、リアルタイム字幕、情報保障席の設置等の必要性について調査する。

キーワード：聴覚障害者, 音楽イベント, 障害者差別解消法

1. はじめに

聴覚障害者の「聞こえ方」には多様性があり、ほとんど音が聞こえない方もいれば、補聴器や人工内耳を使用して音が明瞭に聞き取れる方もいる。聴覚障害者の音楽の楽しみ方も様々であり、振動やリズムを感じることで音楽を味わったり、楽器を演奏したり、音楽イベントに積極的に参加したりしている。これまでの多くの研究により、聴覚障害と音楽が両立しない要素であるわけではなく、聴力レベルがそのまま音楽の聴取能力を決定するものではないことが明らかにされている。[1]しかしこれまでの研究では、聴覚障害者が音楽イベントに参加する際に直面する具体的な課題や障壁について、包括的かつ詳細に調査されたものは限られている。そのため、現状では情報保障が十分に提供されておらず、聴覚障害者が音楽イベントにおいて平等に楽しむ機会が制限されているケースが多い。

障害者差別解消法は、障害を持つ人々が社会参加において平等に扱われることを目的に、2016年4月1日に施行された。この法律は、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」、及び「環境の整備」を行うことを求めている。そして、障害のある人もない人も

共に暮らせる社会を目指すという法律だ。[2]

つまり、音楽イベントもこの法律の対象となり、様々な障害を持つ方々への「合理的配慮」が求められる。

しかし、法律が改正され音楽イベントにおける合理的配慮が求められるようになったとはいえ、その支援体制は十分だとは言えない。会場には一部の支援設備が整えられているものの、興行側の意識の低さや既存システムの運用面での課題から、それらの設備が十分に活用されていないのが現状である。[3]このような聴覚障害者が音楽イベントに参加する上での課題や問題を明らかにすることで、バリアフリーな音楽イベントの実現に向けた対策ができると考える。

本研究では聴覚障害者へのアンケートを実施することで音楽イベントにおける課題を明らかにすると共に、どのような配慮が求められるかを考察することを目的とする。

2. 研究手法

音楽イベントに参加したことがあるか、または興味のある18歳以上の聴覚障害者を対象とする。対象者の選定方法は坂入の研究でインタビューを実施した方の紹介や、聴覚障害者協会を通じて行う。目標とする対象者数を

30名と設定する。研究対象者にはメールを送付し、オンラインでアンケートを実施する。図1のように最初に基本情報、日常の音楽聴取、音楽イベントの参加について調査する。その後、音楽イベントに参加経験のある方とない方に分けて質問事項を変えて調査を行う。

聴覚障害者を対象とした音楽イベントに関するアンケート

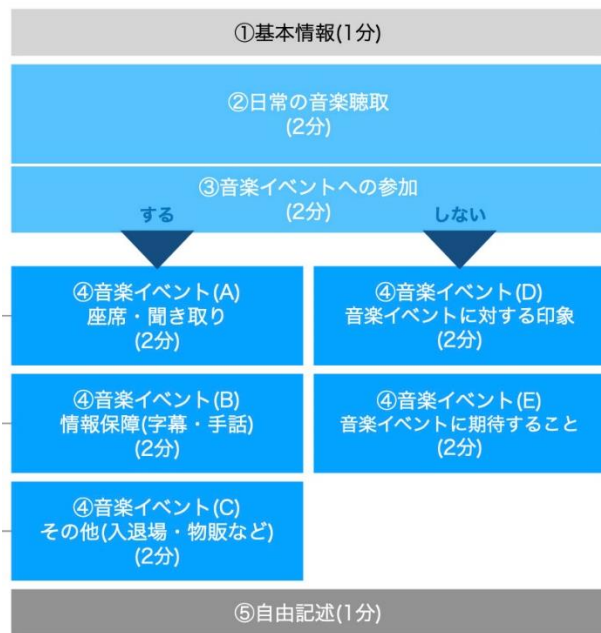


図1 アンケート概要

3. 検証方法

音楽イベントに参加したことがあるか、または興味のある18歳以上の聴覚障害者を対象としてアンケート作成をする。対象者の選定方法は坂入の研究でインタビューを実施した方の紹介や、聴覚障害者協会を通じて行うことを想定する。目標とする対象者数を30名と設定する。研究対象者にはメールを送付し、オンラインでアンケートを作成する。

4. アンケート作成

量的調査を行うためのアンケートを作成した(図2)。このような内容で、15分以内に回答できるように設計した。このアンケートを元に試験的に聴覚障害者の方に回答していただき、今後の研究のために改良を行う。

図2 アンケートフォームの一部

5. 展望

また、音楽イベントの主催者や関係者に向けて、聴覚障害者のニーズに合わせたイベントの企画や実施に役立てることができる。また、本研究の成果は、聴覚障害者の音楽文化参加の推進につながり、社会的インクルージョンの実現に貢献することが期待される。聴覚障害者が音楽イベントに参加することが当たり前になり、障害のある人々が社会の中で自立的に活躍できるようになることは、社会全体にとって大きなプラスになると期待できる。

参考文献

- [1]坂入南風, 吉岡英樹, 石田彩(2024)「聴覚障害者が音楽イベントに参加する際の課題及び実態の調査と提言」, 『NICOGRAPH』, pp. F99:1~F99:4.
- [2]内閣府, 「障害を理由とする差別の解消の推進」. <https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>.
- [3]東時子, 森本祥一(2012)「ライブ・コンサートにおける聴覚障害者支援の提案」, 『FIT2012(第11回情報科学技術フォーラム)』, pp431~432.